

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.84

先人の知恵を実証 一水に浮かぶ古城址一

徳島県 板野町長

なかしま まさる
中島 勝



板野町は、徳島県の北東部に位置し、北は阿讃山脈、南は吉野川に挟まれ、町の東側には旧吉野川が流れており、それに合流する宮川内谷川、黒谷川などの中小河川が町の中央部を横切っているという非常に河川の多い町です。

これらの河川の水の恩恵を受けた肥沃な大地は、古くから農業が盛んに行われ、稲作はもちろん、洋人参、レンコン等の農産物は四国内にとどまらず、京阪神・首都圏にまで出荷されています。

しかし、この水は豊かさをもたらす一方、台風などの大雨による氾濫洪水により大きな被害をもたらしてきたことも事実です。

近年では、平成16年10月の台風23号によって、板野町でも中小河川の氾濫による床上浸水をはじめ、避難勧告・避難指示を発令するまでの大きな洪水被害がありました。

しかし、この23号台風時、町の中央部の中小河川に挟まれた低地の中にありながらも、そこだけは台地になっており、床下浸水の被害さえも出さなかった地区があります。

この地区は古城(ふるしろ)という地区で、読んで名のごとく、その昔平安時代末期に、藤原師光(入道しては西光)の第六子近藤六親家によって板西城という城が築かれ、源義経が屋島の合戦に向かう時には大きな役割を果たした城があった所で、現在は80世帯300人ほどの人々が暮らしています。

800年以上もの昔に、低地の中にありながらも水害の危険のない台地を選んで城を築いていた先人たちの知恵に、23号台風を経験して改めて感心させられました。

現在は城址として、祠と石碑があるだけですが、洪水時以外でもこの古城地区が台地であることが確認できる季節があります。先にも書きましたが、板野町は洋人参の生産が盛んで、秋から春にかけてはビニールハウスが町内の農地を覆い尽くします。

この季節、もし板野町にお越しの際は、町内の高台や徳島自動車道から南方向を見てみてください。ビニールハウスの海の中にぽっかり島のように浮かんでいる地域、そこが古城地区です。



23号時の浸水の様子



上空から見た古城地区(写真中央の集落)



現在の板西城址